

ICカードを使った プレゼンス情報表示システムの構築

005144 中村 奈美

(指導教員 速水 治夫 教授)

1.はじめに

近年ではJR東日本の「Suica」や、住民基本台帳ネットワークシステムでの本人確認に利用されるなど、ICカードも徐々に普及しつつある。これにより、ICカードの多角的な利用が求められている。

一方、ユーザの在籍状況を表す、プレゼンス情報が注目され始めている。

この二つを組み合わせることにより、正確で誰でも簡単にプレゼンス情報を表示できるシステムを提案する。

2.目的

本システムはICカードの個人認証の機能を利用し、研究室の他のメンバーのプレゼンス情報をWebアプリケーションで確認できるシステムの構築を目的とする。

3.システム構成

本システムの構成図を図1に示す。

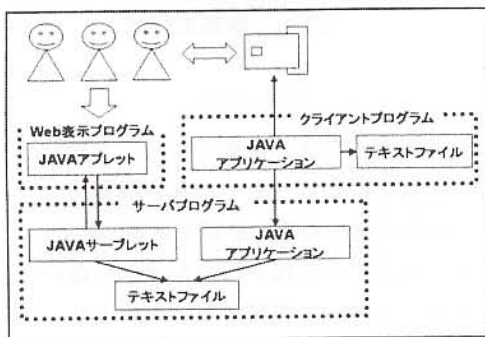


図1.システムの構成図

システムは、クライアントプログラム、Web表示プログラム、サーバプログラムの大きく3つに分類される。

クライアントプログラムはICカードを定期的に監視する。また、確認した状態は

サーバプログラムに送られる。

Web表示プログラムはユーザがインターネットで閲覧するプログラムである。(図2参照)ユーザが行き先を表示したい場合はボタンを押すことで状態変化の要求をサーバプログラムに送信し、結果を表示する。

サーバプログラムは、クライアントプログラムから定期的に送られる情報を受け取る。また、Web表示画面からの要求を処理し、送信する。



図2.Web表示画面

4.まとめ

本システムでは、ICカードを用いたプレゼンス表示板を作成し、本システムを用いることで、離れた相手のプレゼンス情報を確認することや、相手の状態を知らないことで起きる入れ違いの手間が省けることが確認できた。

今後の課題は、プレゼンス情報の記録や、自動更新機能などの機能を付け、使いやすさの向上が挙げられる。